

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和 6年 6月 6日

静岡県知事

鈴木 康友 殿

提出者

住 所 湖西市吉美3268

氏 名 湖西市長 影山 剛士

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 053-574-2211

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	湖西浄化センター
事業場の所在地	静岡県湖西市吉美950番地の28
計画期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	下水道業（3830）
② 事業の規模	年間汚水処理量 1,290,930.0m ³ （前年度実績）
③ 従業員数	下水道課職員9名 維持管理者3名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙のとおり

（日本産業規格 A列4番）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項	
(管理体制図) 市長－副市長－環境部－下水道課長－浄化センター担当者－浄化センター維持管理業者	

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度（令和 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	下水汚泥	
	排出量	1,216.40 t	t
	(これまでに実施した取組) 汚泥濃縮・脱水工程などの汚泥処理を効率的に行い排出量の抑制に努めた。汚泥搬入を令和5年11月より湖西市環境センターに変更。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	下水汚泥	
	排出量	1,220 t	t
	(今後実施する予定の取組) 汚水処理量の増加に伴い汚泥発生量は増加の傾向となるため、汚泥濃縮・脱水工程などの汚泥処理を効率的に行い排出量の抑制を図る。汚泥搬入先は全量、湖西市環境センター。		

産業廃棄物の分別に関する事項	
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	下水汚泥	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	下水汚泥	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	下水汚泥	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	517.13 t	t
(これまでに実施した取組) 令和5年11月に湖西環境センターが再稼働し、汚泥全量の搬入先に変更した。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	下水汚泥	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	1,220 t	t
(今後実施する予定の取組) 湖西環境センターに汚泥を全量搬入する。			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和 5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	下水汚泥	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	下水汚泥	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和 5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	下水汚泥	
	全処理委託量	1216.4 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	699.27 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
(これまでに実施した取組)			
処理内容を確認し、処理業者と適正な委託契約を締結し、また処分先を現地確認を実施した。令和5年11月より湖西市環境センターへの汚泥搬入を開始。			

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	下水汚泥	
	全処理委託量	0 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量		t
	再生利用業者への処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量		t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>湖西市環境センターへの汚泥搬入を令和5年11月より開始したため、令和6年度の搬入予定なし。</p>		
※事務処理欄			

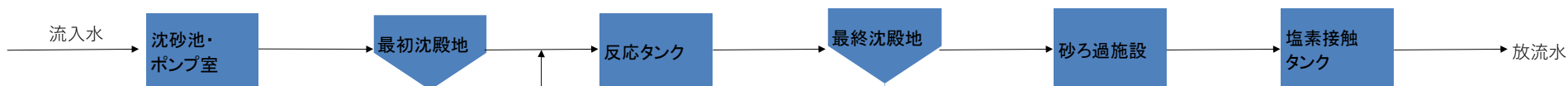
備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

処理工程フロー

令和 6年 6月14日

【処理水】



令和5年 4月 1日 ~ 令和 6年 3月 31日
年間汚水処理量 1,290,930 m³ (前年度実績)

【汚泥処理】

